

野菜自給力強化体制づくり事業

令和8年度当初予算：7,934千円

担い手が減少するなか、野菜の栽培面積を拡大し自給力を高めるためには、農作業の省力・軽労型の生産が必須となっています。そのため、生産の機械化体系や農作業の分業化を進めるとともに、それに合わせた出荷規格での流通・販売事業者と連携したプロモーションに取り組み、認知度向上を図ることで栽培拡大を図ります。

(1) 機械化に適した栽培体系の確立実証と新しい出荷形態の試験販売及びテストマーケティングの実施委託

4,700千円

○なばな

- ・なばなの機械化体系確立に向け、「なばな株とり」の実証試験を支援。
- ・流通事業者と連携して、新・出荷形態による販売定着に向けたプロモーションを支援。



○イチゴ

- ・三重県オリジナル品種「うた乃」における高品質安定栽培技術の確立にかかる栽培実証の支援。
- ・三重イチゴを高単価で販売するため、平パック販売形態のブランド化に向け、プロモーションを行います。



(2) 省力・軽労型生産体系や出荷調整に必要な機械の導入支援

3,234千円

○省力に寄与する機会の導入支援

- ・栽培方法の変更を含めて機械化体系を確立しようとする意欲ある農業者をモデル的に支援することで、その品目の生産拡大を図ります。



なばな畝立て播種機械



なばな株とり栽培園地